特集・旅行台湾年

自転車で楽しむ台湾

自転車ブームが到来

台湾は、今、空前の自転車ブームに沸いている。自転車で台湾を1周する青年を描いた映画のヒットなどを契機に、サイクリングやツーリングを楽しむ人が急増中だ。もともと台湾は世界最大の自転車生産国で下地はあった。行政側はこうしたブームを受けて自転車道路の整備を進めている。台湾観光局では、環境に対する負荷の少ない自転車旅行はエコツーリズムに最適だとして海外へのPRに乗り出した。外国人旅行者に台湾旅行の新たな魅力として紹介していく。

海外に魅力発信、イベントも

2007年、自転車で台湾1周の旅に出る青年を主人公とする台湾映画「練習曲」が大ヒット。旅先での出会い、美しい風景――。台湾の人々の自転車に対する注目がにわかに高まった。

台湾はもともと自転車産業が盛んだ。完成車メーカーでは、世界最大の自転車メーカーとされるジャイアント（捷安特）をはじめ、メリダ（美利達）などが知られている。

映画「練習曲」がヒットした年の5月、ジャイアントの劉金標会長が、17日間をかけて自転車で台湾を1周した。当時、73歳だった劉会長の台湾1周は、テレビ番組などで放映され、大きな反響を呼んだ。

自転車産業の重要性に加え、自転車への関心の高まりもあり、行政側も自転車道路の設置など環境整備に乗り出した。主要道路の自転車レーン、観光地のサイクリングロードなどの整備が進められている。

また、サイクリングやツーリングを楽しむ人が増えるにつれて、レンタル自転車などが各地で使いやすくなり、鉄道やMRT（地下鉄）に自転車を持ち込むための条件整備などの利用環境も向上しているようだ。

台湾観光局も、外国人旅行者誘致に向けて、観光地のサイクリングロードやレンタル自転車の情報を発信している。08年6月には、台湾全土のサイクリングコースを紹介したガイドブック「Cycling in Taiwan」（英語版）を発行した。

台湾にとって自転車旅行は、旅行ニーズが多様化する中、新規旅行者の開拓、リピーターの獲得が期待されている分野。自転車を使った体験型ツアーにとどまらず、環境問題への意識の高まり、ロハス（LOHAS）といった生活スタイルへの関心などから、エコツーリズムの1つとしても注目されている。

台湾での自転車旅行を海外に紹介する大型PRイベントも計画されている。今年9月28日～10月2日、台湾観光局の主催でツーリングイベントが行われる。日本をはじめ、アジア、欧米からツーリング愛好家など、500人規模の参加を目指している。

ツーリングイベントのコースは、日月潭（南投県）、八里～漁人埠頭（台北県・淡水河岸）、七星潭～鯉魚埠頭（花蓮県）、池上～関山（台東県）、大鵬湾（屏東県）の5カ所を予定している。

台湾観光局は、イベントを通じて、自転車旅行のデスティネーションとして台湾の魅力を海外に発信。海外の旅行会社に対しても、ロケーションや受け入れ環境をPRし、ツーリングツアーやサイクリングツアーの商品造成を促進したい考えだ。

自転車がブーム。地元のサイクリストの姿も多くみられる

▲自転車専用道路が整備された道。左側にはオートバイ用のレーンもある。台湾1周旅行などの自転車ブームを受けて、行政側も専用道路の整備を進めている。台湾東部の道路は自動車の交通量が少ない上、路面状況も良くて走りやすい（現地写真は、リンプロジェクト・中村浩一郎氏提供）

◀自転車の旅なら、台湾の美しい景観をゆっくりと堪能できる

中村浩一郎氏　雑誌などで自転車の旅行記やスポーツ関係の記事を手がける。リンプロジェクト（株式会社シャノア内＝東京・元浅草）では情報発信を担当。http：//rinproject.com

台湾東部をツーリングした

リンプロジェクト

中村浩一郎氏に聞く

走りやすい道、旅の魅力も情報発信とサポートが肝心

自転車の旅の魅力を発信しようと、雑誌やインターネット、イベントなどを通じ、さまざまな活動を展開しているリンプロジェクトの中村浩一郎さん。欧州や北米での自転車旅行の経験も豊富だ。今年4月には初めて台湾へ。中村さんに台湾の感想などを聞いた。

■　■

――日本のサイクリストの間で、自転車旅行の旅先として台湾の認知度は。

中村　旅行記やブログなどがあるように、台湾を一周したコアなサイクリストの方は日本にもいますね。ただ、今回僕がやったような自転車で移動しながら観光を楽しむというショートトリップはまだ一般的ではないと思います。

――台湾での自転車旅行のコースは。

中村　温泉などを楽しみながら台湾東部を北上するルートを走りました。5泊6日の行程です。ツーリングのスタート地点は知本温泉で、そこから内陸寄りの9号線を走り、瑞穂温泉、花蓮市、太魯閣、宜蘭、そして台北へというコースです。知本温泉までは、台湾新幹線（台湾高速鉄道）と在来線を使いました。花蓮～宜蘭の間はトラックなどの交通量が多いと聞いたので、鉄道でワープ（自転車を列車に乗せて移動）しました。コース設定は、日本語版はないようですが、現地で売られている自転車ツーリング用のガイドマップを手に入れて参考にしました。

――実際に走って道路の状況などはどうでしたか。

中村　今回走った東側のコースに関して言えば、車の交通量が少なくて快適に走れました。路面の状況が悪いというイメージがありましたが、まったく問題ありませんでした。台湾は小型オートバイが多いので、バイク用のレーンがあるし、自転車専用レーンが整備されている所もありました。

僕は台湾の言葉は分かりませんが、交通標識も「漢字」ですし、感覚的に意味が分かるのも楽です。所々に「自転車休憩所」の看板も出ています。休憩所はたいがい警察署の前。警察署で水をくれたり、パンク修理を手伝ってくれたりすることもあるそうです。

――1日の走行距離は。

中村　ホテルに泊まる旅なので荷物が軽く、1日の走行距離はだいたい80～100キロでした。その間隔にちょうどよく温泉地や街があるので旅を考えやすかった。東側は基本的には平坦で比較的楽に走れます。普段から少しでも走っている方ならこのコースの80キロは問題ないでしょう。ただ、台湾の中央部は南北に山脈が走っているので、宜蘭～台北の間にある峠だけは越えるのがキツかった。

――どのようなタイプの自転車を使うのですか。

中村　マウンテンバイクでタイヤはロード用のものに履き替えています。マウンテンバイクは頑丈だし、タイヤを変えれば、いろいろな路面状況に対応できます。

――自転車は分解して持ち運べるのですね。

中村　そうです。飛行機に積んで台湾に持ち込みました。自転車を分解してバッグに入れて電車に乗せることを日本のサイクリストは「輪行」と言いますが、輪行で移動できると、自由な発想でコース取りができます。体力や時間を考えても、おいしい所をとった旅が楽しめる。台湾新幹線ではチケットを買う時に相談したら、旅行カバンなどを置く荷物置き場に置くように言われました。在来線や地下鉄（MRT）では、時間帯や列車によっては、分解せずにそのまま乗せられます。

――台湾ではツーリングの人気が高まっていると聞きましたが。

中村　走っていると、地元サイクリストとよくすれ違います。国内向けの自転車ツアーも企画されているようです。個人で楽しまれている方には、流行のウエアでビシッときめた方もいましたね。経済力のある方と言うか、企業のエリートを思わせるような方もいて、話してみると、休暇を利用して走り、旅をしているから余計に感じるという部分があるかもしれません。

――日本人の間に台湾での自転車の旅が広まる可能性は。

中村　台湾は日本から近いし、時差がほとんどないというのも旅のロスが少なくていいですよね。夏は暑いかもしれませんが、今回走った4月というのはとても走りやすい季節でした。冬でも温暖だというのは、日本のサイクリストにはとても魅力的です。

台湾に限らず自転車旅行というと、全国1周とか、全国縦断とか、そういうイメージを持つ人も多いと思いますが、僕は旅のツールとして自転車を考えている。完走や走破が目的なのではなく、旅なんです。自転車は、鉄道やバスとは違う自由な旅ができる移動手段であり、その土地の人や自然、文化をより深く感じることができるコミュニケーションツールです。それが自転車旅行を広めたいという僕の基本的なスタンス。

だからショートトリップだっていい。台湾はいろいろな魅力を秘めていると思います。今回のツーリングコース以外でも、マウンテンバイクで遊んだら楽しめそうな場所はたくさんありそうです。レンタルバイクで観光地のサイクリングロードを楽しむという方法もあるでしょう。自転車の旅を通して、台湾の新しい表情、新しい世界が見えてくるんじゃないかな。

――台湾で自転車旅行を楽しむ上での課題は。

中村　日本では情報が少ない。まずはどのような旅ができるのか、どのような遊び方ができるのかという情報を発信してもらいたい。その上で、台湾までのアプローチと、旅行中のサポートを引き受けてくれる旅行会社があればと思いますね。時間や体力に余裕がある人なら現地に行ってしまえばどうにかなりますが、それでは一般の方にはなかなか広まらない。自転車で台湾を楽しむ旅行商品というのは、ライダーとして、旅人としての感覚で言えば、需要はあるように感じますし、盛り上げてほしいと思っています。

沿道には自転車休憩所があることを示す看板がある

キーワード

『練習曲』

2007年に台湾で興行収入1位となった台湾映画。自転車による台湾1周ブームの火付け役となった。聴覚障害を抱える青年が自転車で高雄から台湾1周の旅に出る物語。人々との出会い、美しい風景が織りなすロードムービー。監督は『非情城市』の名カメラマンとして知られる陳懐恩（チェン・ホァイエン）、主演は東明相（イーストン・ドン）。カラー108分。

ジャイアント www.giant.co.jp

台湾の台中県に本社を持つ世界最大の自転車メーカー。1972年設立。世界6カ所に製造拠点を持ち、レース用ロードバイク、マウンテンバイクなど幅広い製品を開発・生産し、各国に市場を持つ。日本にもユーザーが多い。台湾の自転車の利用環境の整備に尽力。航空会社チャイナエアラインとの提携で、台湾の自転車旅行の魅力発信にも乗り出している。

ガイドブック「Cycling in Taiwan」

台湾観光局が発行する自転車旅行のガイドブック。手帳サイズでカラー175頁。現在は英語版のみ。淡水（台北県）、日月潭（南投県）、旗津（高雄市）、七星潭（花蓮県）などサイクリングに適した20ルート、150の観光スポットを紹介している。レンタルバイクやショップの情報も掲載している。

台湾観光局が紹介する自転車旅行の情報サイト http：//eng.taiwan.net.tw/cycling/

観光トピックス

訪台旅行者に特産品プレゼント券の配布開始

08～09年の2カ年にわたり外国人旅行者の誘致に向けたプロモーション「旅行台湾年」を展開している台湾観光局は、訪台客を対象にしたプレゼントキャンペーンの第3季（7～9月）分の引換券＝写真＝の配布を始めた。

プレゼントする特産品には、台湾観光局が厳選したパイナップルケーキや茶、タロイモクッキーなど30品目をラインナップ。桃園国際空港の第1・第2ターミナル、高雄小港国際空港の出発ロビーにある指定免税店で交換できる。

引換券は、台湾観光協会の東京、大阪の事務所に事前に申請すれば、希望枚数を送付してくれる。

入手方法は http：//www.go-taiwan.net

食のイベントに注目

台北で「美食展」開催 台南は「辦卓（バントー）」紹介

台湾の食の魅力をテーマにしたイベントが8月に台北市と台南市でそれぞれに開催される。

台北市では8月20～23日、今年で20回目となる「2009台湾美食展」が台北世界貿易センターで開かれる。メーンテーマは「台湾・新・美食伝統&創新」。世界の料理人が腕を競うコンテストや料理教室などが開かれる。台湾各地の食の名品を販売するコーナーも設置される。

台南市で8月18日に開かれるのは、「台湾伝統野外美食パーティ『辦卓（バントー）』」。台湾観光局が主催。会場は国家第一級古跡「安平古堡」。バントーとは野外に仮設の会場を設けて行う伝統的な宴会で、本格的な台湾料理がふるまわれる。このバントーをイベント化。当日は伝統芸能なども披露される。台湾観光局では、新たな観光プログラムとして外国人旅行者に紹介していく。

台北MRTに内湖線が開通

台北MRT（地下鉄）の新路線「内湖線」が7月4日に正式開通した。

内湖線は、木柵線との相互乗り入れという形で、木柵線の終点「中山國中站」から「松山機場站（松山空港駅）」を通り、内湖区を経由して終点「南港展覧館站」までの13駅、14・8キロを走る。

台北車站～松山空港駅の間が約12分（乗り換え時間を除く）で結ばれた。レジャーやショッピングの複合商業施設「美麗華百樂園（ミラマーエンタテイメントパーク）」などがある内湖区エリアの交通網として便利だ。

台湾観光局　http://jp.taiwan.net.tw

台湾観光協会　東京事務所
〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目5-8　川手ビル3階
電話 03-3501-3591　FAX 03-3501-3586

台湾観光協会　大阪事務所
〒530-0047　大阪府大阪市北区西天満4-14-3 6F
電話 06-6316-7491　FAX 06-6316-7398